

優秀賞

## 私の選んだ道

鹿児島市立黒神中学校 1年 田中 璃杏

私には二つの選択肢があった。

どちらかを選ばなければならなかった。

一つ目は、祖母や母、兄弟が通った中学校に入学すること。しかし、その中学校は、その当時、通う生徒がいなかったため休校していた。その中学校に通うということは、全校生徒一人ということであり、授業も学校行事も全て一人で行うことになる。

二つ目は、家から少し離れた学校に入学すること。そちらの学校に行けば、交流学习などで一緒に学習した友達がいる。一人で入学することもなく、授業も大勢で受けられて、楽しいかもしれない。

私は、とても悩んだ。どちらを選べば正解なのか、分からなかった。家族は「好きな所に行けばいい。」

と言ってくれた。何度も話し合いをした。何度も話し合いをするうちに、自分がどうしたいのか考えるようになった。

私は、二年後に入学してくる妹を待ちたい、家族の卒業した学校に行きたい、地域の方々の思いや、中学校の伝統を守りたいと思うようになった。

だから、私は、休校していた学校に行くことにした。私にとって、これまでで一番大きな決断だった。決めてからも、これでよかったのかと考えない日はなかった。

入学式の日。緊張で押しつぶされそうだった。しかし、私一人の入学生だったのに、普段は、船に乗っていて中々家にいない祖父、これから一緒に学ぶ先生方、笑顔の地域の方々が迎えてくれた。卒業した小学校からは、入場する道にたくさんの花を並べてくれた。一人だけれど一人ではない。私の決めたことは間違いではなかったと感じた。

「一人でさびしいね。大丈夫。」

と心配して聞いてくれる人もいるが、全くさびしくない。なぜなら、自分で決めたことだし、学校は楽しい。授業もおもしろい。これからの三年間が楽しめでしかたない。